

【平成 30 年度 審判員の目標】

(公財) 日本ハンドボール協会 審判委員会
指導委員会

『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め（競技規則 8:1 ~ 8:3）

競技規則第 8 条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係（先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか）と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの**影響**を正しく見極めなければならない。

- ① 防御側プレーヤーが、不利な位置（横や後ろからボールを対象とせず）から攻撃側のプレーヤーに接触を試みたならば、競技規則 8 の 2、8 の 3 の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則 8 の 3（d）の「違反行為の**影響**」を見極める。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失うことなくプレーをしたならば、スピーディーなゲーム展開となるよう、アドバンテージを適用して安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの**影響**を見極めて、罰則を適用するかどうかの**判断**をする。

< 研究課題 >

- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適用する。
- ◆ ボディーランゲージ (Body Language) を用いて、プレーヤーとコンタクトを取り、基準を示す。
- ◆ ゴールレフェリーが、ゴールエリアライン付近の攻防をきちんと管理する。